

9 指宿商業高校 災害時の施策について

(質問)

指宿商業高校の二つ目の質問として、災害時の施策について質問させていただきます。

令和6年1月1日に能登半島地震が発生し、道路が寸断されたことにより、救援支援が難しかったり、老朽化した水道管の影響でライフラインの復旧が遅れたりという問題が起きました。

指宿市では、インフラ設備の強化に努め、近隣市との情報共有と協力関係の構築が必要だとしていますが、今回の地震を受けて、新しく整備するインフラとは何でしょうか。あるいは、どのような情報を共有し、どのような協力を築くかなど変化があったのでしょうか。

また、先月から今月初めにかけて大雨が降ったように、最近では自然災害が多く発生している印象です。指宿市では、災害時の避難所などを市民に知らせていると思いますが、どのような方法で市民に知らせていますか。私たち高校生がすぐにアクセスし活用できる情報はどのくらいあるのでしょうか。

(答弁)

まずは、元旦に発生しました能登半島地震で被害に遭われた方々、いまだ避難生活をされている方々に心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

それでは指宿商業高校の質問にお答えさせていただきます。インフラ設備の強化という点において、指宿市では、県内の比較も含め令和4年度の決算によれば、道路、きょうりょう橋梁に使われている費用は県内19市中7位で多額の予算を投じております。市民の生命・財産を守るために優先的に予算措置をするなど最大の関心を持って取り組んでおります。

水道管は、順次、耐震管に替えてきており、その耐震管は接続部に遊びがあり揺れでも壊れないものを使用しています。指宿市の基幹管路の耐震化率は45.6%で全国平均の42.3%を上回っています。新しいものというより、今あるものの長寿命化を図っております。

道路の改良工事は、道路状態や交通状況等の諸条件を総合的に判断する評価基準に基づき、整備の優先順位を判断して年次的な整備により安全性・快適性の向上を図っています。また、避難路の整備も行っています。

6月に能登半島地震を踏まえた国の防災基本計画の修正案が決定されましたので、これに基づき県の計画が見直され、それに合わせ市の計画を見直す考えです。

近隣市との情報共有と協力ということに関しては、南薩地域振興局、南九州市、南さつま市、枕崎市との防災担当者会議を年に2回開催して意見交換・情報共有を行っています。

市では、年に1回市総合防災訓練を実施しており、自衛隊、警察、消防、医師会等に参加いただき、平時から連携の強化を図っています。

また、市内量販店等と災害時応援協定を締結し、不足する食料、資材等を調達するほか、市外の飲料関係事業所とも飲料水の優先供給について、災害時応援協定を締結しており、今後も民間事業所との応援協定により必要な物資の確保に努めて行きます。

ここで皆さんにお願いです。市は想定される、あらゆる災害について防災計画に基づき、今お話した以上に市民の生命・財産を守ろうと努めておりますが、国からの支援の調達には3日を要しますし、被害状況次第では調達がスムーズにいかない場合もありますので、皆さんも、家庭での安全対策、備蓄品及び非常用持ち出し品などの備えをしていただきたいと思います。自分の命は自分で守る！が大事だと思います。

では、次の質問の災害時の市民への周知について、先にお配りしている資料をご覧ください。防災無線のほか、市のホームページ、協定を結んでいるYahoo!防災アプリ、MBC データ放送などがありますので、ぜひご活用ください。そしてデジタルが苦手なお父さん、お母さん、おじいさん、おばあさんにも皆さんが教えてあげてください。

最後に、市の財政は限られております。その中で市民のためにどのようにお金を使うべきか予算を立てます。議員は、このようなお金の使い方はおかしいとか、もっとこのように使ってほしいとか審査したり提案したりします。

例えば、皆さんの家庭も、ひと月に入ってくる収入は限られているので、それをやりくりして生活されていると思います。皆さんが「あれが欲しい」と言っても「ダメ」と却下されることも多いのではないのでしょうか。それよりも家族にとって今一番必要なものに使われていると思います。市の財政もそれと同じです。

質問の冒頭にもありましたように、能登半島地震では、インフラの老朽化により被害が拡大した可能性があるかとされています。限られた財政の中、福祉対策ももちろん重要であると思いますが、それによって必要な老朽化対策が遅れてはなりません。政治を司る一番の仕事は市民の生命・財産を守ることです。そういう点からも指宿市は県内19市の中でもインフラの強化に力を入れていると思っています。

先ほども申し上げましたが、自分の身を守るという最低限の対策をしながら、近所の一人暮らしの高齢者などにも目配せしていただけるようお願いします。「自助」「共助」の気持ちを、ぜひ持っていただきたいと思います。

最後になりましたが、近年はペットも家族の一員という考えが浸透しています。そこで指宿地域はなのはな館に、山川地域は山川庁舎に、開聞地域は開聞総合体育館に、ペットをケージに入れた状態であれば飼い主と一緒に避難できるペット同伴避難

所設置の準備を進めていることを申し添えて答弁を終わります。